

◎ポリオとは

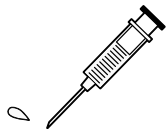
ポリオとは、ポリオウイルス感染による急性のウイルス感染症で、便を介してウイルスが口の中に入って腸の中で増えることで発症します。

大人が感染することもあります。乳幼児がかかることが多い病気です。感染しても多くの場合、症状は現れず、極希に手足に麻痺が現れ、その麻痺が一生残ったり、重症の場合は死亡することもあります。

現在は残念ながら、病気を完全に治す有効な治療法がないので、ワクチン接種が唯一の予防法となっています。

◎ポリオの流行

日本では、1960年に5千人を超える大流行があり、経口生ポリオワクチンを導入し、1980年の1例を最後に現在までは、国内に患者さんはいません。しかし、海外では南アジアやアフリカ諸国で未だに流行しており、中国でも発症したという報告が最近もあることから、日本にポリオウイルスが入ってくる可能性はいつでもあるといえます。



◎経口生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンになったのは?

2012年の夏まで日本では、ポリオの予防には、経口の生ポリオワクチンが使われていました。

経口生ワクチンは予防効果が高い一方で、毒性を弱めたウイルスを体に入れることで、抗体という予防効果を体に残させません。そのためワクチン関連麻痺といい、ワクチンを接種したことで、極希に麻痺が出現してしまう例があることが問題となってきました。

生ポリオワクチンは、ポリオウイルスの毒性を弱めて免疫をつくるワクチンではありますが、弱いとはいえウイルスは生きています。そのため、ワクチン関連麻痺を防ぐためにポリオウイルスを不活化し、免疫をつくるために必要な成分を取り出して病原性をなくした不活化ワクチンを、海外で施行されてきた実績を基に、日本でも接種することとなりました。

◎不活化ポリオワクチン接種について

2012年9月より、不活化ポリオワクチンが日本でも開始となりました。

現在、国で認められ使用されているワクチンは、フランスで製造されているイモバックスポリオワクチンというもので

す。このワクチンは、初期に作られた不活化ポリオワクチンを改良したもので、流行の可能性がある1型、2型、3型を予防する3価のワクチンです。

イモバックスポリオワクチンは、世界86か国で承認されており、30年以上の実績があるワクチンです。

経口生ワクチンとは異なり、ワクチン接種後にウイルスが便中に排泄されることもなく、ご家族も安全にお子様の排泄物の処理もできます。

現在3か月齢から接種可能であり、DPTワクチンと同様に、3〜8週の間隔をあけながら、初回接種を3回行い、1年後に追加接種を行う計4回接種の方法となります。

経口生ワクチン接種を1回行っている方も、不活化ワクチンに切り替え既定の回数を行う必要があります。

現在は四種混合ワクチンという従来のDPTワクチン+ポリオワクチンが世界に先駆けて、日本で開始されましたが、まだまだワクチンの普及が少ない状況です。

特効薬がない病気であること、現在は国内では流行はありませんが、国際化が進む中、いつでも国内に入り込み流行する可能性があること、流行してからは予防が間に合わなくなるといふことを踏まえ、大切なお子様の健康、生命を守るために早期の接種を行いましょ。

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)	
3	新座	橋本内科クリニック	内・小・循内	481-2626	朝霞	はねだクリニック	内・外・消内・肛・放	469-2139	
	10	新座	志木南口クリニック	内・外・小・消内・整外・肛・リハ	485-6788	和光	和光小児科クリニック	小・内	467-1108
2	11	新座	片山診療所	小・皮・内	481-0260	朝霞	青柳診療所	内・消内	465-5077
	17	和光	恵クリニック	内・消内・皮	464-9893	朝霞	あおば台診療所	脳外・内・小	474-5270
	24	新座	くりはら内科クリニック	内・消内・循内	042-438-6606	志木	幸町クリニック	消内・内・外・肛	485-5600



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。